

第1回 福井市都市計画マスタープラン等策定委員会 議事録(要旨)

日 時： 令和5年8月21日(月) 14:00~15:30

会 場： 福井市 企業局庁舎 301会議室

出席者： 別紙のとおり

事務局： 福井市都市戦略部都市計画課

【議事内容】

○事務局

<議事(1)について、資料1「福井市都市計画マスタープラン(概要版)」に基づき説明>

○委員長

資料14ページにうまく整理されているが、①多様な拠点づくり、②身近な生活空間づくり、③移動の骨格づくり、④水と緑の空間づくりの4つの視点が大きな方針になっており、実際今どうなっているのか、またいかに実現化していくかということである。

マスタープランは、具体的な事業や詳細な計画と連動しながら実現化していく大きな計画であり、難しく大きな話である。委員それぞれの専門もあるので、身近なところから1年半かけて議論させていただきたい。

○委員

私自身が、県外から転入してきており、福井はすごく車社会だなと思っている。子どもも3人いるので、3人連れて出掛けるとなると「まず駐車場」というまちの仕組みに疑問を持っていたので、【歩く】視点というのはすごく素敵だと感じる。

また四つの視点から見た将来の都市の姿だが、14ページを見た時に、いまいちイメージがつきにくく、これを見てどんな所を歩けるのかな、と疑問に思ったのでこちらをご説明頂きたい。

○委員長

福井は基盤整備が非常にしっかりしており、区画整理もされていて碁盤目状で道路も広くとても素晴らしいまちづくりを進めてきたが、それだけに車に頼りすぎずに歩けるまちを作っていく、特に公共交通を充実させることが求められる。

もう一つは、中心市街地でも歩いて楽しいというところ。「ふくみち」の社会実験もしているが、なかなかマスタープランに書ききれず、イメージも湧きにくいと思っており、どうしたらいいかと考えている。

○委員

私たちがどこまで意見を言えば良いのか、議論して良いのかが分からない。

○委員長

都市構造の話だけだとなかなか難しいので、中心市街地のこの辺りがもう少し歩けるまちだといいいのではないか、等の議論でも良いと考えている。そのような意見の積み重ねでまちが出来ていくと思う。

そのあたりについて事務局はいかがか。

○事務局

委員長からもお話があったが、基本的には様々なご意見を頂きたい。それをベースにどのよにマスタープランに落とし込んでいくかということをごちの方で検討していく。

○委員

私が今所属しているのが福井県子ども NPO センターというところで、子どもの健全育成事業をしている。子どもにとっては身近な生活空間づくりの話が一番身近だと思うが、その中に子どもの意見が挙げられておらず、まちづくりの中で子どもが置いてきぼりになっていると感じる。

これから 10 年、20 年推進する計画であるならば、子どもが参画出来るように議論することも必要なかなと感じている。

○委員長

子育てしやすく、また、子どもが歩いて楽しいまちというのは非常に大事だと思う。安全・安心なまちに繋がるような都市マスにしていきたい。

事務局はいかがか。

○事務局

次世代を担う子どもたちからの意見聴取も必要であると考えている。現在調整中だが、市内の中学生を対象に、福井市全体のまちづくりの方向性や住みたい、住み続けたいまちのアンケート調査を行うことを検討中である。

○委員

14 ページの四つの都市の姿について、成功した事例、モデル的な地域を、紹介いただけるか。

○事務局

現在の都市計画マスタープランでは地域拠点をも 13 箇所定めている。その中で、例えば東郷

駅周辺では、地元の方々が中心となって、おつくね祭りを開催する等、まちづくりに取り組んでいただき、地域拠点の形成がされている。

また、清水の方では、ショッピングセンターがあり、そこに公共交通・公共施設を集積して地域拠点として形作っている。

○委員

そのような情報が市民に行き渡っていないのではないか。お知らせするのがいいと思う。

また、やはり産業が盛んでないと人も寄ってこないのではないかと思う。

自然や歴史でいうと、現在一乗地区で県と連携して盛んに取り組んでいると思うが、県外からの来訪者のことを考えても、交通網の連携について委員会の中で進めて欲しい。

自転車についても、駅前の所で自転車に乗れるが、わざわざそこに行くことはなくて、日常的にもっと身近に自転車を使うという矛盾がある。子どもだけでなく高齢者も自転車で行って遊べる場所を作るということも考えてみてはと思う。

やはり、交通の便が一番気になる。人が集まるから交通の便が良くなるというところもある。施設が充実すれば人が集まるのか、人が良いから集まるのか、環境が豊かだから集まるのか、分類して検討していけたらと思う。

○委員長

人が集まる場所には色々なテーマがあるので、そういったものと連動するようなマスタープランであってほしいと思う。

交通に関して副委員長、いかがか。

○副委員長

パンフレットでは使い方やルールのなものが読み取れないので、使い方を含めた指針にしていかないと具体的な所に落とし込めないし、理解も出来ないと思う。しかし、細かいことは書ききれないので、市のそれぞれの所管が個別に対応することもあるかと思う。ここでは、まとめながら大きな柱を作っていくという位置付けなので、大きい細かい関係なく意見を取り入れて直していけばいいと思う。

また、歩くという話では、いかに安全に歩けるか、その環境がどう担保されるかを具体化して示せるといいと思う。例えば「ゾーン30」では、側道のある程度整備して、より安全にしましょうと言っているが、その思想をどう周知しながら、運用していくのかを含めて議論しないとうまく行かないと思う。

子どもの目線からマスタープランをみると確かに良く分からないので、目に見える形で提示するのが良いかと思う。

ラストワンマイル・ファーストワンマイルといって、少し歩くという環境が整わない限りは、公共交通がいくら軸としてあっても使われないので、その辺りを「歩きたくなる」と結び付けても

う少し具体的に提示できるか、というところが課題になると思う。

○事務局

< 議事(2)について、資料2「福井市都市計画マスタープランの改定について」に基づき説明 >

○委員

仕事柄、障がいがある方と接する機会が多いのだが、いかにハード面が整っていようと障がいのある方は一人で利用することが出来ないのが現状である。ハード面の進捗は見てくる一方で、ソフト面での進歩、「優しさ」という視点からも併せて計画に取り入れていけないかと思う。

○委員長

ハードをいかに使っていくかというところが最近主流となってきており、ソフト面の対応含めて、マスタープランに描き切るといのはなかなか難しいが、繋がるようなプランにしていけたらと思う。

○委員

改定理由について、県の都市計画区域マスタープランの改定や、法の一部改正、社会情勢の変化ということだが、計画の規模が大きく、どこまで突っ込んで議論すればよいのかを教えてください。

妻が長野県の安曇野市出身で、非常に良い所である。福井は区画整理が進んでいる所が長所だが、逆に安曇野市は区画整理が進んでおらず、むしろ進んでいないからこそその価値がある。山の中の美術館などがかえって価値があったりする。住人も、都会から来られる方が多くおり、田舎の中にも都会の空気を感じられるような、福井では味わえないような感覚がある。

私は福井を誇りに思っているが、今回のマスタープランの策定を通してどこまで具体的にというのは難しいかもしれないが、そういったものを利用していけたらと思う。

○委員長

マスタープランは上位の計画なので、具体的なものは他の計画と連動しながら進めていくということになる。しかしそうは言っても今のお話のようなことが繋がるようなところもあると思うが、そのところ事務局はいかがか。

また、どこまで議論していくかというところだが、改定理由について、福井県都市計画区域マスタープランはもう一つ大きな話であり、それと福井市都市計画マスタープランが繋がらなければならないという意味で書かれているのだと思っている。防災面や立地適正化計画についてもどこまで突っ込めるかと言う話だが、どうか。

○事務局

マスタープランだが、全体構想とは別に分野別構想や地域別構想が付随している形になる。今年度は全体構想についてご意見頂き、来年度は分野別構想や地域別構想の議論となるので、少し深いところまでご意見を頂きながら進めたいと考えている。

ただし、委員長からも話があったが、マスタープランは全体的な施策の指針になっていくものなので、頂いたご意見をベースにいかにか大きく捉えられるような単語を作っていくかということを考えていく必要があると思うので、様々なご意見を頂き、検討していきたい。

○委員

災害リスクの低減のための居住誘導区域の見直しについて、リスクの大きいところからの移動・移住を進めていければと思う。

また、公共交通機関について、越廼方面などは限界があると思うので、コンパクト・シティ等を推進することで、公共交通機関の維持をしていただきたいと思う。

道路空間づくりについて、高齢化社会ということで、タクシーではなく、四輪自転車、バイクのようなもので高齢者も安全に動けるような道幅なども考えていただければと思う。

○委員長

居住誘導区域の見直しについて、その通りで、住むのに適さない場所を決めていくということになる。

○委員

都市づくりの理念や都市像の見直しの中で、方向性を考えたときに、【歩く】視点を維持する必要があるのか、あるいは福井市の顔になるようなもっと別の視点に大幅に変わってもよいものなのかが気になる。

また、水と緑の空間作りを考えると、福井市内の人向けなのか、市外の人向けなのかによって考え方が全然違ってくる。都市像として「住みたい」場所として議論をするのであれば身近な視点になり、「来て欲しい」だったらもっと違う視点になると思う。どういう視点にするのかを考えるのであれば、色んな意見が必要になってくるので、そのさじ加減を教えてくださいと嬉しい。

視点が【歩く】になるならそれでいいと思う。それによって方向性が同じになっていけば、皆さんが同じ視点で話が出来ると思う。

○委員長

【歩く】だとすんなり収まる感じはする。魅力があるまちというのはどこを歩いても楽しいということもあるし、安全・安心というものに繋がると思う。

事務局はいかがか。

○事務局

【歩く】という視点は、これまでも福井市がまちづくりとして、取り組んできたところであり、今後もそこは継続して進めていきたいと考えている。

○委員

二点ほど意見をお伝えしたい。

先ほどお話があったが、やはりこの先、福祉の観点から都市づくりをすることは大事だと思う。建築の分野でも、福祉と何かを分けるのではなく、地域包括と言ったことがすごく大事にされてきていて、これまでの建築のビルディングタイプにしても、高齢者施設、病院、幼稚園などで分けられているが、それをごちゃ混ぜにすることで、まちが元気になるという事例が全国で見られる。その視点を持って、福井市も取り組んでいかないと、これからの高齢化社会、障がい者との関わりの問題が根本的に解決しないと思う。都市構造図の中で、デイケアセンターや公民館、小学校等、丸になっているプロトタイプが少しアメーバ状に形が変化していくべきだと思う。これからの福井市の未来像を示す時に、丸ではなくて違う形になっていくといいのではないか。

また、防災の視点だが、空き家問題と防災が掛け算で上手くいかないかと思っている。例えば県外で災害が起こった時の福井市としての受け入れ体制と、空き家問題を上手くリンクさせられないか。都市構造図では、にぎわい拠点などしか示されていないが、その中に防災の拠点というものが示されるべきではないかと思う。

○委員長

まちづくりにおいて福祉というのは、欠かせない視点だと思う。地域の生活圏で、この4つの施設で良いのかというのは確かにある。もっと、アメーバ状に湧き上がってくるような、例えば「よろず茶屋」など、福祉的なものが繋がっていくこともあると思う。

事務局はいかがか。

○事務局

そういう部分も含め、今後ご意見頂きながら作っていきたいのでよろしくお願ひしたい。

○事務局

<議事(3)について、資料3「立地適正化計画の改定について」及び資料3-2「立地適正化計画のイメージ図」に基づき説明>

・立地適正化計画の改定について審議する専門部会について、委員長の指名により学識経験者の4名を構成員とすることを決定した。

○事務局

<議事(4)について、資料4「市民意識・意向調査(アンケート調査)について」に基づき説明>

活発な意見を頂き、会議終了時間を過ぎていたため、議事(4)については質問・意見をメール等でお受けし、後日共有したいと思う。

※議事(4)について、後日委員からいただいた意見等は、別紙「議事(4)市民意識・意向調査(アンケート調査)に関する意見と対応について」のとおり

○委員長

それではこれにて会を終了したい。次回は現行マスタープランの評価、課題の整理等についてご意見をいただきたい。

福井市都市計画マスタープラン等策定委員会

議事(4) 市民意識・意向調査(アンケート調査)に関する意見と対応について

意見等	対応
問6②及び問17について、「ハザード」で統一するのであれば、「地震」「火事」「浸水」、「災害」で統一するのであれば「地震災害」「火災」「水害」とした方がよいのではないか。	「地震」「火事」「浸水」で統一するよう修正いたします。
問4の居住歴の質問について、年配の方などは、合併前の福井市外に住んでいた場合、回答に迷うかもしれない。	ここでいう「福井市」とは、現在福井市となっている地域を指します。確かに、合併前に生まれたため、福井市外で生まれたと思われる方がいるかもしれません。「福井市と合併した町村の方は、福井市としてお考え下さい。」と注釈を入れます。
大問1(住んでいる地区のこと)→大問2(市全体のまちづくりのこと)→大問3(住んでいる地区のこと)と、質問内容のスケールがいたりきたりするので、分かりづらいかもしれない。	ご指摘のとおりスケールが行き来するため、地域拠点を大問2、福井市全体のまちづくりを大問3と修正いたします。
アンケート表紙の都市マスについて、ネット検索となっているが、QRコードをつけたほうが良いのではないか。	福井市都市計画マスタープラン概要版のQRコードを記載します。
アンケートの回答数が少なかった場合どうするのか。アンケート回収の実績などはあるか。	都市計画課で平成20年に行ったアンケートは回収率が44%、平成26年時は48%となっています。また、近年市で行ったアンケートについても回収率は40%~50%となっています。今回のアンケートは回収率45%(900通)を想定しています。
18歳未満へのアンケートはどのような質問を行う予定か。	対象を、数え年で15歳を迎える市内の中学2年生(立志式の学年)約2,000人とする予定です。ホームルームの時間にアンケート調査を行うため、5問程度とする予定です。設問の内容は現在検討中です。
アンケートの送付について、地域は考慮するのか。	地区の人口比率を考慮して配布いたします。
アンケートで「あなたにとって歩きたくなる街を教えてください」という質問を追加してはどうか。県外でおすすめなど何が必要なのか参考になるかもしれない。	最後の設問である自由記述欄に例として、「私が歩きたくなるまちは…」と記載し、歩きたくなるまちについての意向が確認できるよう修正いたします。